TOKAI UNIVERSITY　　UND UNIVERSITY OF NORTH DAKOTA

グランドフォークスだより

第005号　2007 年 5 月 13 日（日）　～　2007 年 5 月 19 日（土）

この二週間続いた殆ど快晴に近い天候を何と表現したらいいのか、私はそれを適切に表現する言葉を知りません。とにかく素晴らしい。このような中で、東海大学航空操縦学専攻一期生Aグループの学生はパイロットとして最も感激し、将来にわたって最も記憶に残るであろうファーストソロフライトを終えようとしています。

４月半ばにGFKSに移動してから約1カ月、湘南CAMPUSとは違った緊張の連続だったことでしょう。飛行機を一人で飛ばすということは、実は大変なことなのです。二次元の世界に住む人間が自然の摂理に反して三次元の世界に挑もうというのですから簡単な筈はありません。湘南で勉強した航空の理論もそれほど体系的に理解出来た訳でもないでしょうから、最初は失敗の連続なのです。それが僅か１３時間位ですべてをクリアーしてしまうのですから、努力や教育というのは本当に偉大なものだなとつくづく感心してしまいます。

ソロが終わるともう次の目標を設定しなければなりません。いつまでもソロ気分に浸っているわけにはまいりません。学生たちはもう次の目標に向かって走り出しています。

非常に逞しくなったように見えます。知的に見えます。品格が備わりつつあるのではないかと期待しています。

GFKSの６月は一年で最高の季節だと聞きました。多分観光には最適のシーズンなのでしょう。しかし学生達はすべての娯楽を棚に上げてフライトに挑戦し続けるのです。将来エアラインのパイロットを目指す彼らにはこんな期間も必要なのです。

今週は好天に恵まれ、非常に順調にフライト訓練が出来ました。次の目標は、ステージチェックだと思います。訓練で求められるものも次第に複雑さを増します。

by 桑　原